

厚生労働省 平成28年度
女性医師キャリア支援モデル
普及推進事業実施報告

東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター
女性医師再研修部門 一般内科プロジェクトチーフ

横田仁子

医療機関等における環境整備

「女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会」
報告書概要より(平成27年1月23日)

- | | | |
|--------|-------|-------|
| ①職場の理解 | ②相談窓口 | ③勤務体制 |
| ④診療体制 | ⑤保育環境 | ⑥復職支援 |

本事業では主に

「②相談窓口」と「⑥復職支援」を実施

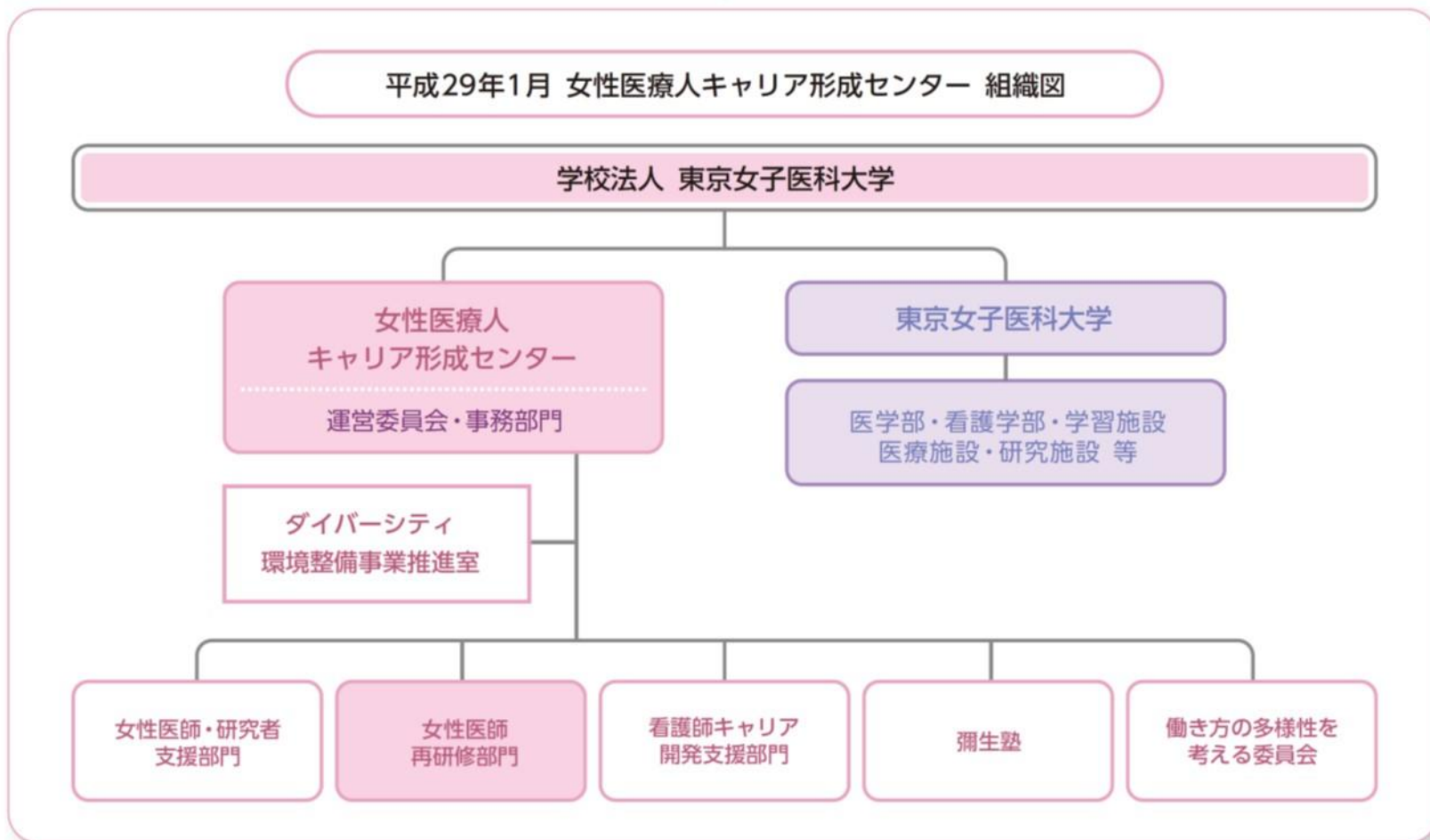
その他の項目についても
学内での取り組みを報告いたします

報告概要

1. 女性医療人キャリア形成センター
女性医師再研修部門の概要と運営
2. 全国的女性医師の現状
3. 本学の女性医師支援の歴史
4. 相談窓口、復職支援(一般内科プロジェクト含む)
5. その他の環境整備
6. 普及推進:報告書配布
7. 総括と今後の課題

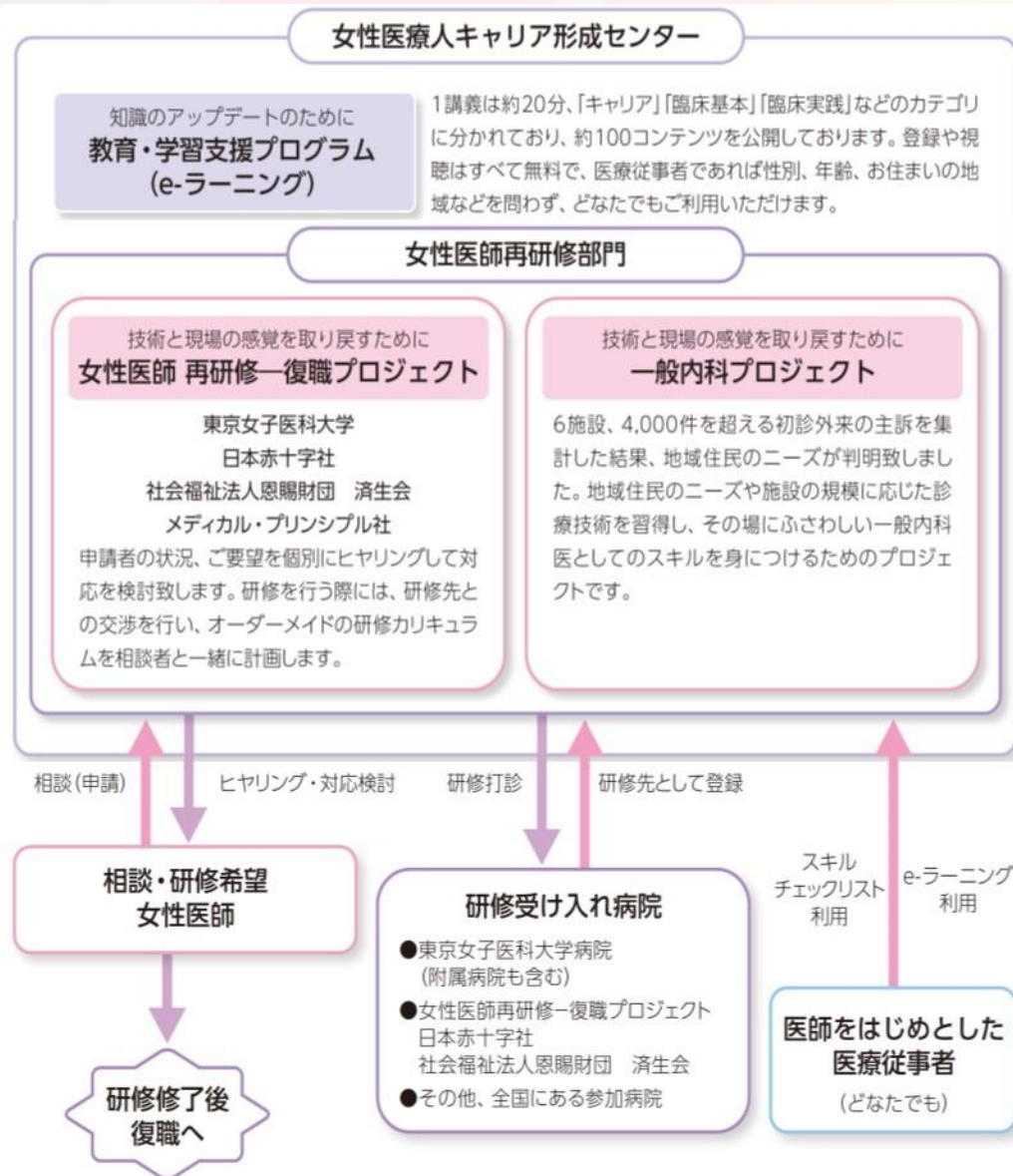
1. 女性医療人キャリア形成センター 女性医師再研修部門の概要と運営

(1)組織図



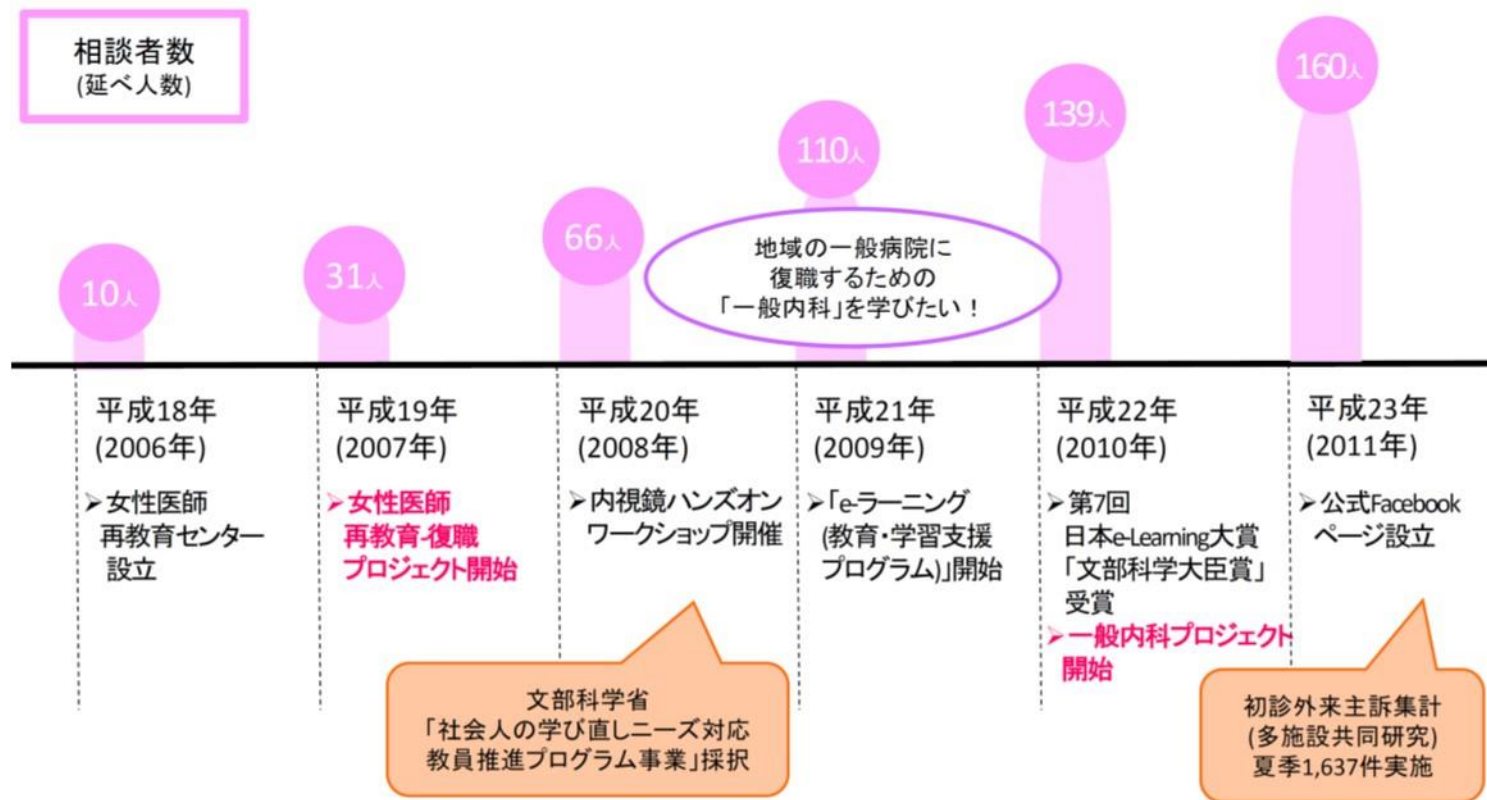
1. 女性医療人キャリア形成センター 女性医師再研修部門の概要と運営

(2)実施体制



1. 女性医療人キャリア形成センター 女性医師再研修部門の概要と運営

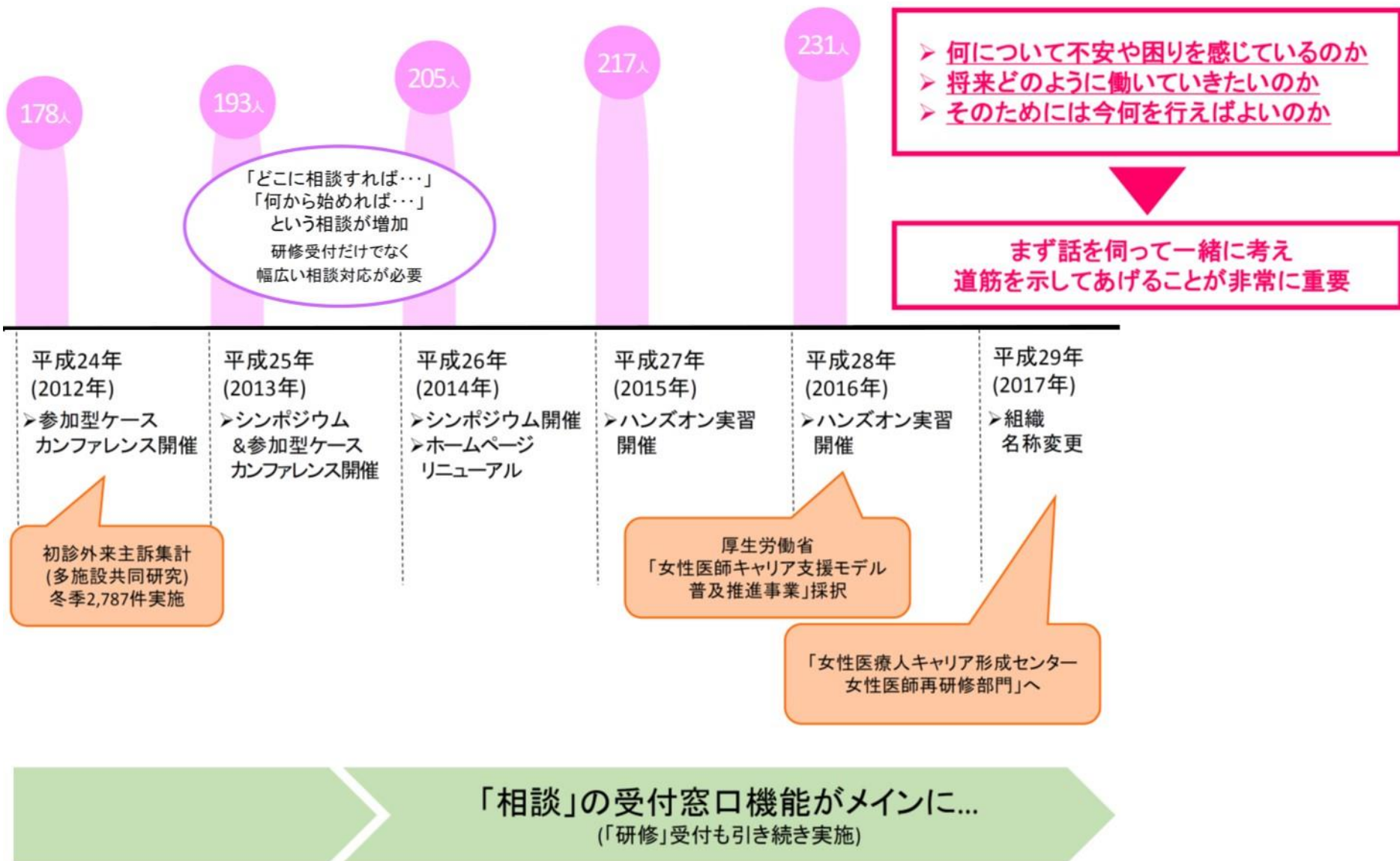
(3) 女性医師再研修部門 10年の歩み



「研修」の受付・窓口機能がメイン

- 「ある程度の経験がある診療科への復職」を目的とした研修相談受付を実施
- スキルアップ、転科などの相談ではなかなかお力になれないことも...

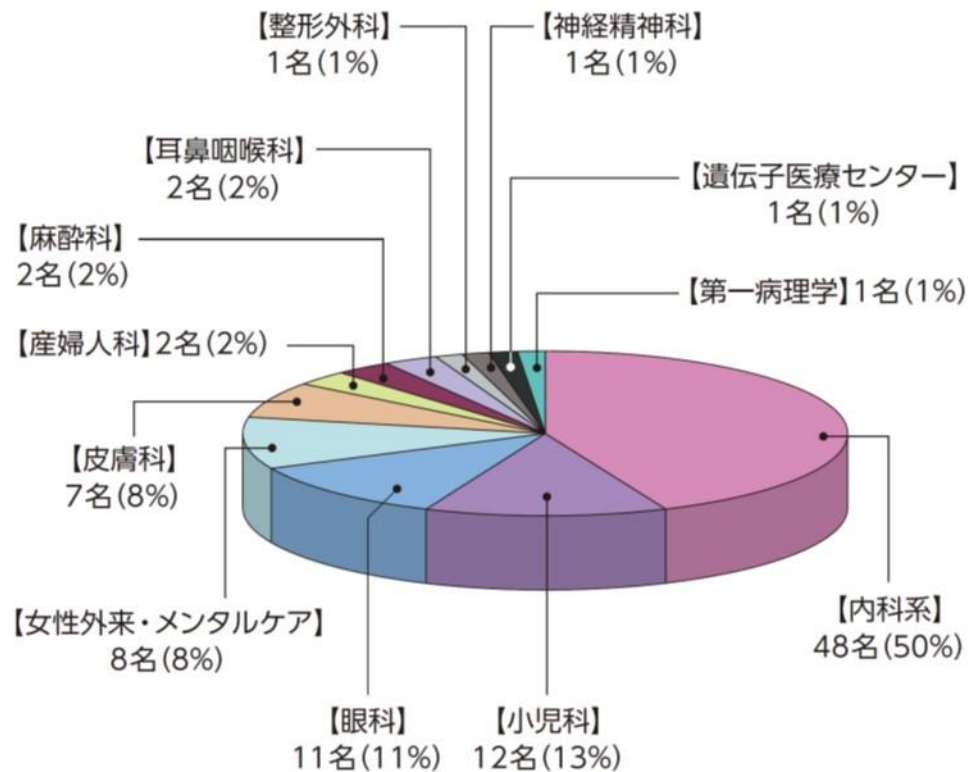
1. 女性医療人キャリア形成センター 女性医師再研修部門の概要と運営



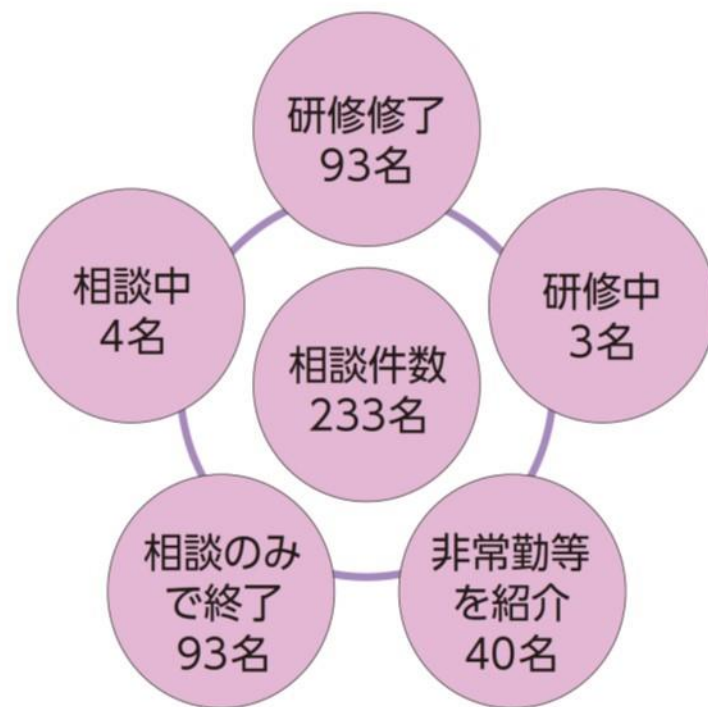
1. 女性医療人キャリア形成センター 女性医師再研修部門の概要と運営

(4) 相談・研修状況

研修先診療科の割合 (n=96)



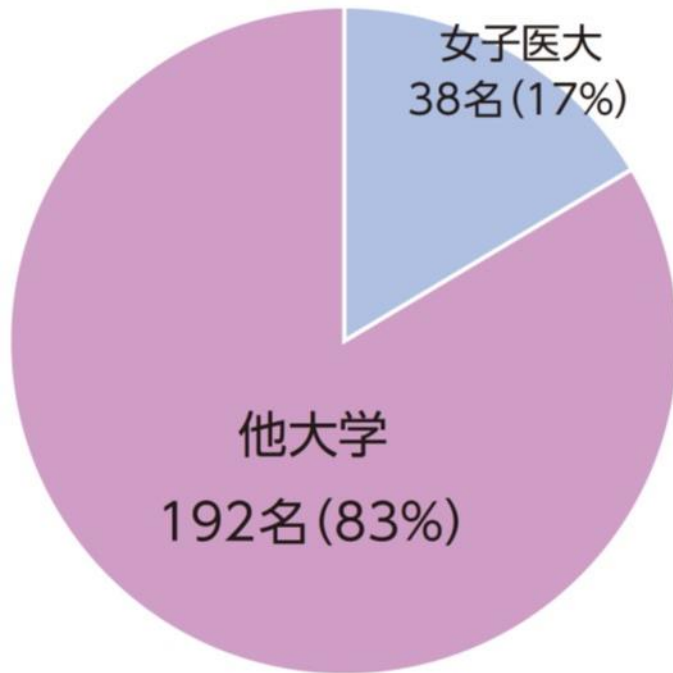
相談者の状況



1. 女性医療人キャリア形成センター 女性医師再研修部門の概要と運営

(4) 相談・研修状況

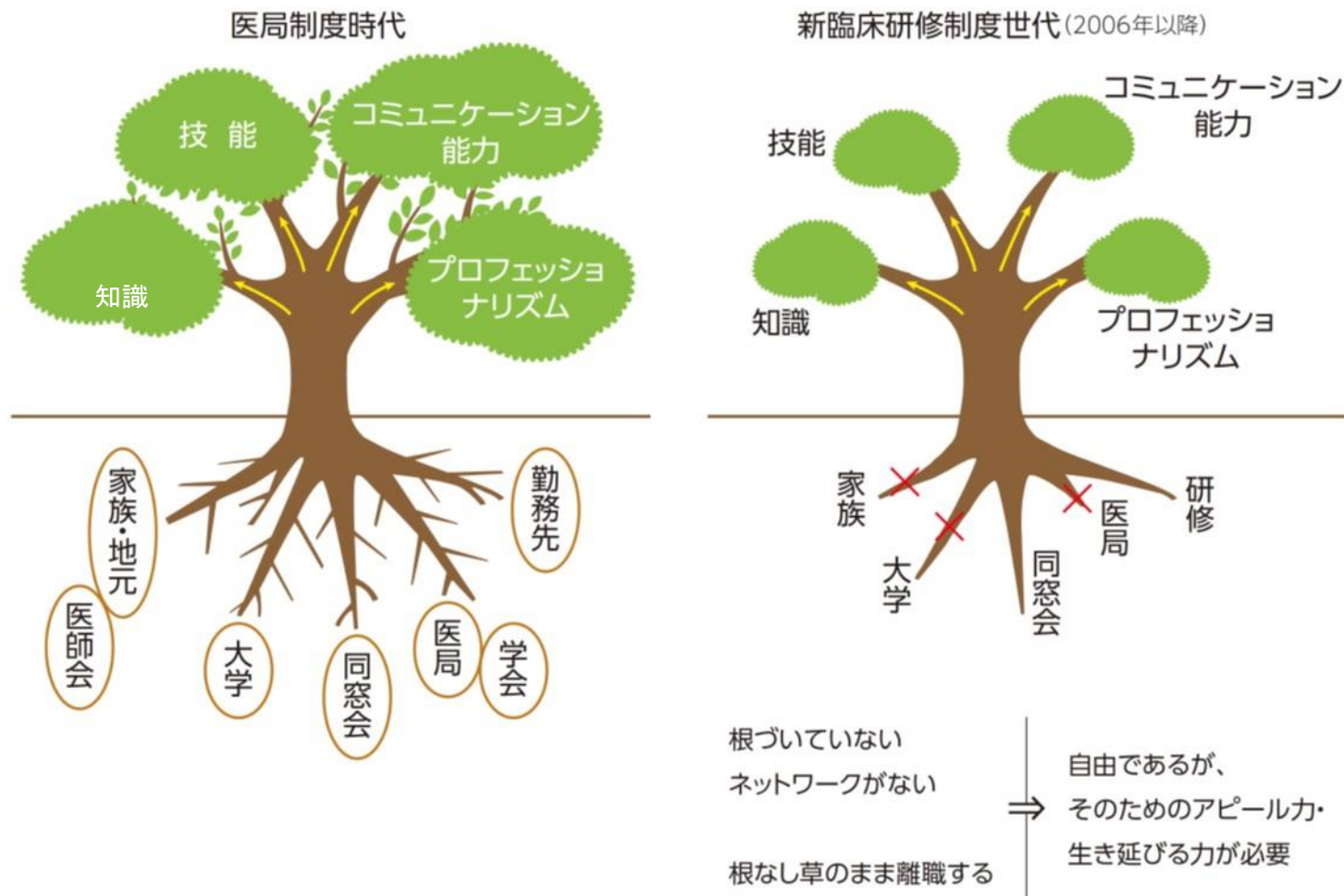
相談者の卒業大学



旭川医科大学、札幌医科大学、岩手医科大学
山形大学、福島県立医科大学、群馬大学
埼玉医科大学、千葉大学、慶応義塾大学
東京医科歯科大学、東京慈恵会医科大学
順天堂大学、東邦大学、帝京大学、日本医科大学
昭和大学、杏林大学、北里大学、防衛医科大学校
筑波大学、横浜市立大学、山梨医科大学
聖マリアンナ医科大学、信州大学、金沢医科大学
東海大学、近畿大学、大阪医科大学、兵庫医科大学
浜松医科大学、徳島大学、富山大学、京都府立大学
広島大学、奈良県立医科大学、山口大学、香川大学
神戸大学、川崎医科大学、滋賀医科大学
福岡大学、久留米大学、佐賀医科大学、長崎大学
大分大学、熊本大学、産業医科大学、鹿児島大学
琉球大学、Albany Medical College

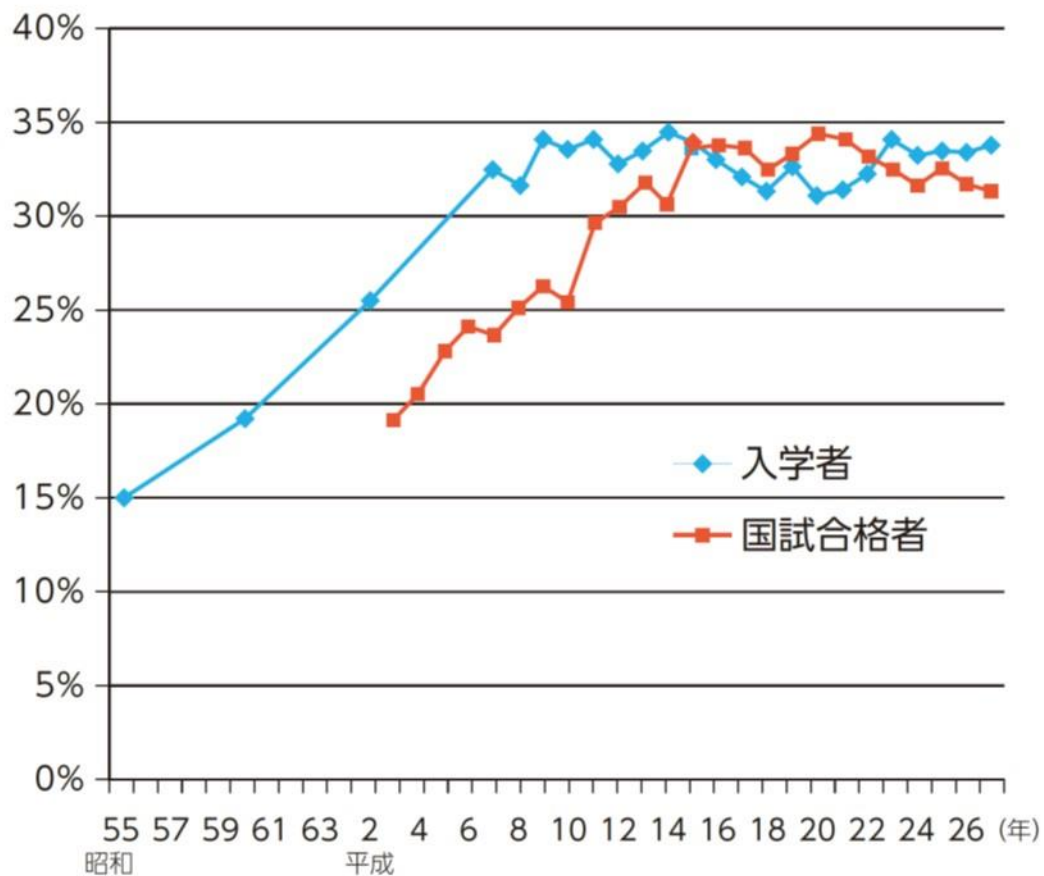
2. 全国の女性医師の現状

「医局制度」から「新臨床研修制度」世代へ



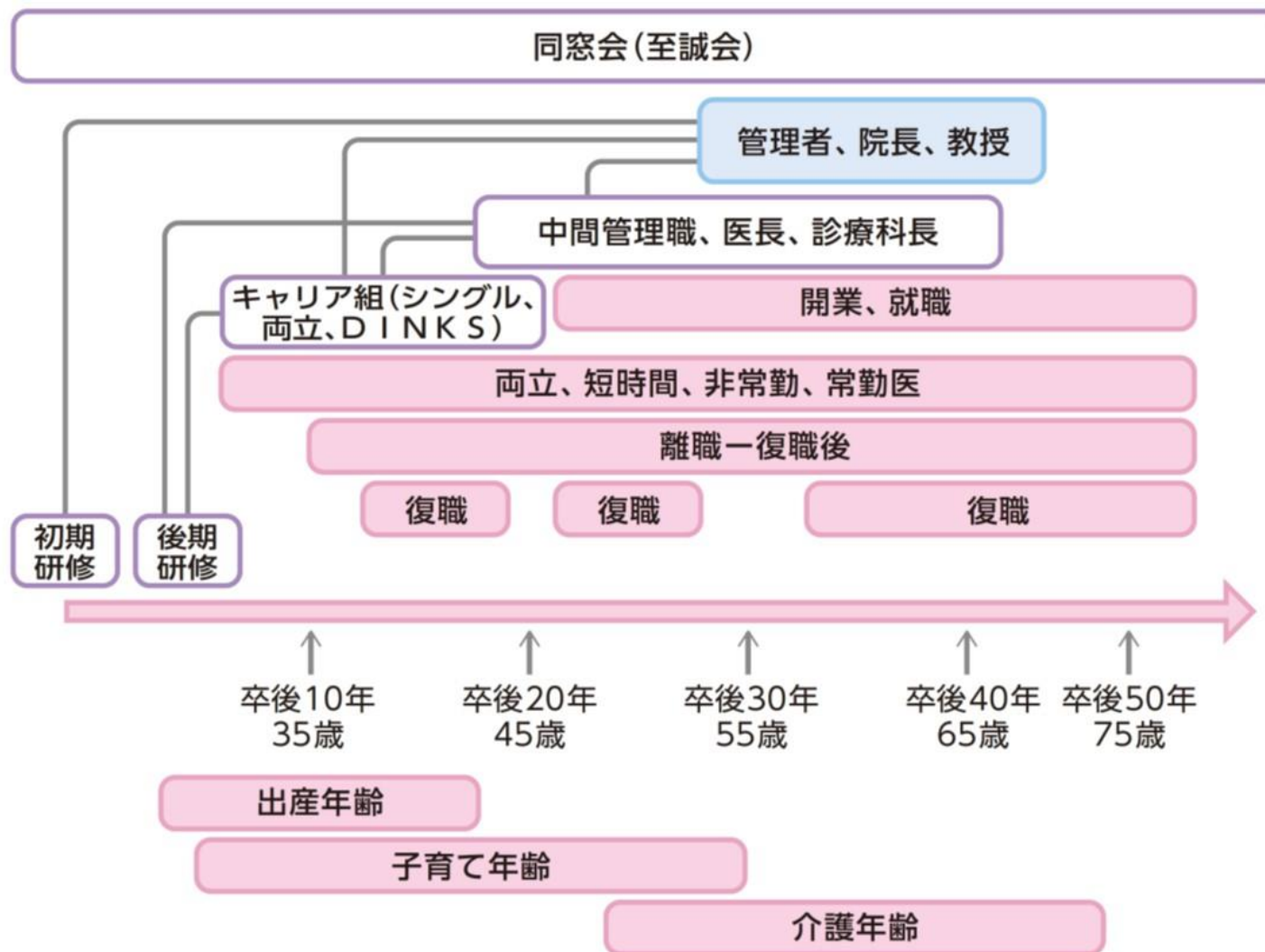
2. 全国の女性医師の現状

医学部入学者・国家試験合格者数に占める女性の割合

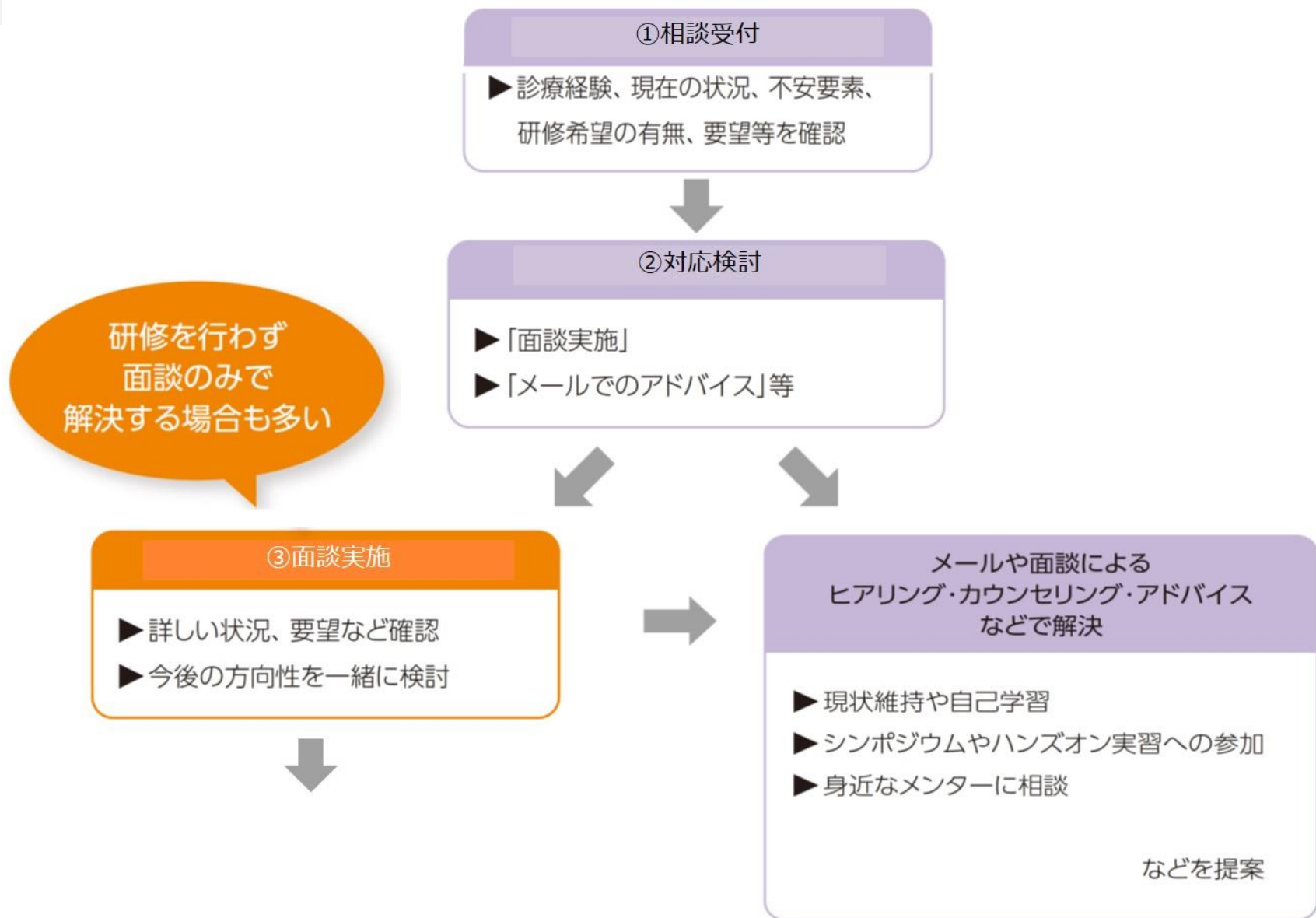


(出典) 学校基本調査(文部科学省)厚生労働省医政局医事課試験免許室調べ

3. 本学の女性医師支援の歴史



4. 相談窓口、復職支援



4. 相談窓口、復職支援



④ 研修候補先面談

- ▶ 診療科担当者と面談実施
- ▶ 研修内容等のすり合わせ



⑤ 研修実施

- ▶ 手続き後、研修開始
- ▶ 研修中の日数・事務局間変更も可



⑥ 研修修了

- ▶ 復職へ!
- ▶ 修了後も相談受付は引き続き実施

「研修ありき」ではなく
詳しくヒアリングを行って
「これからの自分」を
「一緒に育む」ためのサポートが重要



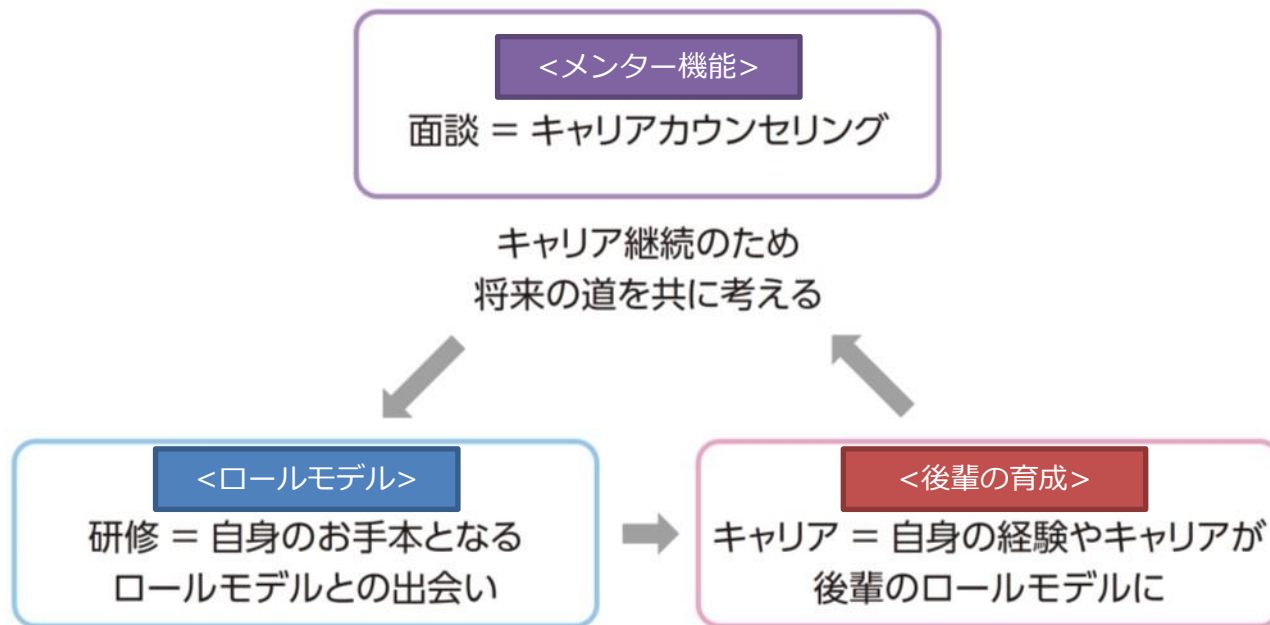
相談者の声に耳を傾け、育み、導く

メンター、ロールモデルの重要性

4. 相談窓口、復職支援

	相談者の傾向	対応方法
①	<ul style="list-style-type: none">・診療経験や知識は十分・専門医を取得、または専門性が明確・「数年離職」などにより不安がある	<ul style="list-style-type: none">・面談や研修を行うことで、診療経験や知識が十分であることを認識させ、復職への自信に繋げる
②	<ul style="list-style-type: none">・責任感が強く、「できていない」現状に罪悪感や焦燥感がある・「あれもこれもしなければ」と身動きが取れない	<ul style="list-style-type: none">・今まで「できていること」と現状「足りないこと」など状況を一緒に認識する・考えすぎている部分を整理して紐解き、道筋を示す・必要に応じて研修を行う
③	<ul style="list-style-type: none">・責任感が強く、「できていない」現状に罪悪感や焦燥感がある・出身医局・地元から離れ、相談する場所がわからず時間が経過している・今後の方向性がうまく描けない	<ul style="list-style-type: none">・今まで「できていること」と現状「足りないこと」など状況を一緒に認識する・方向性として何が適しているかアドバイスを行う・研修実施や新たなネットワーク作りを提案する
④	<ul style="list-style-type: none">・非常勤などで勤務は問題なくできている・現状に対して「このままでよいのか」という悩みがある・責任感が強く、現状できていること以外に意識が向いている	<ul style="list-style-type: none">・「今できていること」をヒアリングしながら認識させる・現状とは異なる「新たに目指したいこと」をヒアリングする・「今できていること」の継続と「新たに目指したいこと」への挑戦、いずれが適しているかを一緒に検討し、道筋を示す
⑤	<ul style="list-style-type: none">・責任感が強く、「できていない」現状に罪悪感や焦燥感がある・現状と目標が食い違っている・過去に職場で馴染めなかった経験がある	<ul style="list-style-type: none">・現状をヒアリングしながら一緒に認識し、何が適しているか紐解いていくことが重要・アドバイスなども行いながら、直近で何をやるべきか、その後どうしていくのか道筋を示す

4. 相談窓口、復職支援



第1段階

女性医師再研修部門によるヒアリングと対応方針の検討

〈担当：事務局〉

第2段階

面談 ⇒ メンター機能

〈担当：担当医師、相談者、事務局〉

第3段階

研修 ⇒ 医学知識・技能の勘を取り戻し、ロールモデルを見つける

〈担当：研修先指導医、相談者、事務局〉

4. 相談窓口、復職支援

<相談・研修後の状況調査アンケート>

平成28年3月実施

■対象：相談者217名のうち、メールアドレスが有効な162名を対象に実施

回収率

配布	回収	回収率
162	72	44.4%

回答率

回答する	回答しない	回答率
71	1	98.6%

「回答しない」理由：最近相談したばかりで、状況に変化がないため。

4. 相談窓口、復職支援

1. 当部門にご相談された際にお住まいだった地域を教えてください。(n=72)

地域	人数	割合
北海道地方	2	2.8%
東京都	36	50.0%
関東地方	27	37.5%
中部地方	3	4.2%
近畿地方	1	1.4%
九州地方	2	2.8%
その他	1	1.4%
	72	100.0%

2. 当部門にご相談された時の年齢を教えてください。(n=72)

年齢	人数	割合
～29歳	10	13.9%
30～34歳	13	18.1%
35～39歳	17	23.6%
40～44歳	11	15.3%
45～49歳	13	18.1%
50～54歳	5	6.9%
55～59歳	3	4.2%
	72	100.0%

4. 相談窓口、復職支援

3. お子様がいいらっしゃる方は、当部門に相談された時のお子様の人数と年齢を教えてください。(n=59)

お子様の人数	人数	割合
1人	21	35.6%
2人	24	40.7%
3人	13	22.0%
4人	1	1.7%
	59	100.0%

お子様の年齢分布

年齢	人数	年齢	人数
0歳	3	15歳	1
1歳	5	16歳	2
2歳	5	17歳	3
3歳	4	18歳	3
4歳	6	19歳	1
5歳	1	20歳	3
6歳	1	21歳	0
7歳	5	22歳	1
8歳	4	23歳	0
9歳	3	24歳	2
10歳	2	25歳	0
11歳	3	26歳	1
12歳	6		
13歳	1		
14歳	2		

4. 相談窓口、復職支援

4. 当部門に相談された時の勤務状況について教えてください。(n=71)

相談時の勤務状況	人数	割合
休職(離職中)だった	32	45.1%
非常勤で勤務していた	26	36.6%
常勤で勤務していた	9	12.7%
その他	4	5.6%
	71	100.0%

その他：役員、嘱託産業医、研究所勤務、育休中

5. 現在(平成28年3月)の勤務状況について教えてください。(n=71)

現在の勤務状況	人数	割合
休職(離職している)	7	9.9%
非常勤で勤務している	31	43.7%
常勤で勤務している	28	39.4%
その他	5	7.0%
	71	100.0%

その他：企業専属産業医、大学院生、産休中、研修中など

4. 相談窓口、復職支援

相談時	現在	人数	割合
休職(離職中だった)	休職(離職している)	5	15.6%
	非常勤で勤務している	15	46.9%
	常勤で勤務している	9	28.1%
	その他	3	9.4%
		32	100.0%

相談時に「休職(離職中)」だった32名のアンケート調査時の状況

▶ 非常勤で勤務 ⇒ 15名(約47%)

▶ 常勤で勤務 ⇒ 9名(約28%)

当部門での相談・研修がきっかけとなり

24名(約75%)が復職

4. 相談窓口、復職支援

センター相談時	現在	人数	割合
非常勤で勤務していた	休職(離職している)	1	3.1%
	非常勤で勤務している	13	40.6%
	常勤で勤務している	12	37.5%
		26	81.3%

相談時に「非常勤勤務」だった26名のアンケート調査時の状況

- ▶ 非常勤で勤務 ⇒ 13名(約41%)
- ▶ 常勤で勤務 ⇒ 12名(約38%)

当部門での相談・研修がきっかけとなり
12名(約38%)が常勤勤務
さらに13名(約41%)は非常勤勤務継続

4. 相談窓口、復職支援

6. 「質問4」で当部門相談時に「休職(離職中)だった」「非常勤で勤務していた」と回答された方にお聞きします。

休職(離職)されたきっかけや、常勤から非常勤勤務になったきっかけを教えてください。

※最も当てはまるものひとつ (n=58)

きっかけ	人数	割合
出産、育児	30	51.7%
夫の留学、転勤	11	19.0%
ご自身の体調不良	8	13.8%
結婚	4	6.9%
介護	1	1.7%
その他	4	6.9%
	58	100.0%

その他：転居と出産、子供の病気、不妊治療

7. 当部門に相談された目的を教えてください。(n=71)

目的	人数	割合
臨床技術や知識に不安があるため、研修で取り戻したい	47	66.2%
ある程度臨床経験はあるが、さらにスキルアップするため	15	21.1%
転科希望で、新しい診療科の勉強をするため	3	4.2%
その他	6	8.5%
	71	100.0%

その他：就職先の相談や情報収集、専門知識の取得

4. 相談窓口、復職支援

8. 当部門に相談をした際、ご自身の中で一番不安に思っていたこと、困っていたことはどのようなことですか?(n=73)

一番不安に思っていたこと、困っていたこと	人数	割合
診療技術など実力への不安	38	56.7%
仕事と家庭・子育てとの両立	14	20.8%
復職の手段や方法がわからない	12	17.9%
その他	3	4.6%
	67	100.0%

その他：勤務先の職場環境、専門医取得 ※未回答6名

相談時に一番不安に思っていたこと、困っていたこと

- ▶ 回答は自由記載とした
- ▶ 総括すると「診療技術などへの不安」、
「仕事と家庭・子育てとの両立」、
「復職の手段や方法がわからない」の
3つに分かれる

「診療技術など実力への不安」が最も多いが
「仕事と家庭・子育てとの両立」や「復職の手段や
方法がわからない」という点も同時に不安に思っ
ているケースもある

4. 相談窓口、復職支援

9. 「質問8」でお答えいただいた不安に思っていたこと、困っていたことは現在解消されていますか？(n=71)

相談時の不安等が解消したか	人数	割合
解消した	45	64.3%
解消していない	25	35.7%
	70	100.0%

※未回答1名

10. 「質問9」で「解消した」を選ばれた方は、どのように解消されたか、きっかけや要因、手段などを教えてください。(n=45)

不安が解消したきっかけ、要因、手段	人数	割合
研修	21	47.7%
相談	17	38.6%
周囲のサポート	4	9.1%
転科	1	2.3%
特になし	1	2.3%
	44	100.0%

※未回答1名

「相談時に一番不安に思っていたこと、困っていたこと」の解消要因、手段

- ▶ 回答は自由記載とした
- ▶ 総括すると「研修」、「相談」、「周囲のサポート」「転科」の4つに分かれる

解消要因としてはやはり当部門での「研修」と「相談」を挙げる方が全体の9割近くを占めた。「相談」が解消要因となっている方が4割近くおり、ヒアリングやカウンセリングの重要性を示している。

4. 相談窓口、復職支援

11. 「質問9」で「解消していない」を選ばれた方は、その理由について教えてください。(n=25)

不安が解消していない要因	人数	割合
自身の事情(就職先が未定、体調不良、経験不足など)	18	78.2%
育児との両立	2	8.6%
周囲のサポート不足	1	4.6%
その他	2	8.6%
	23	100.0%

※未回答2名

「相談時に一番不安に思っていたこと」が解消していない要因

- ▶ 回答は自由記載とした
- ▶ 総括すると「自身の事情」、
「育児との両立」、「周囲のサポート不足」の
3つに分かれる

「自身の事情」の中には就職先が未定、体調不良などもあったが、自身の「現状」と「目標」が見合っていないケースも見受けられた。

4. 相談窓口、復職支援

12. 当部門に相談されたとき、専門医を取得されていたか教えてください。(n=71)

相談時の専門医資格	人数	割合
取得していた	28	39.4%
取得していない	43	60.6%
	71	100.0%

13. 「質問12」で「取得していない」を選ばれた方は現在の専門医資格について教えてください。(n=43)

現在、専門医を取得しているか	人数	割合
取得している	10	23.3%
取得はしていないが、今後取得を目指している	14	32.6%
取得はしておらず、現時点で取得する予定はない	19	44.2%
	43	100.0%

専門医の取得について

▶ 当部門相談時に「専門医を取得していなかった」方を対象に、現在取得しているかどうかを確認した。

相談・研修後に専門医を取得した方が「10名(23.3%)」、今後取得を目指している方が「14名(32.6%)」であることが判明した。相談・研修が復職だけでなく専門医取得の後押しになっていることが伺える。

4. 相談窓口、復職支援

女性医師再教育センター(現・女性医師再研修部門)アンケート調査

■実施時期：平成25年5月～6月

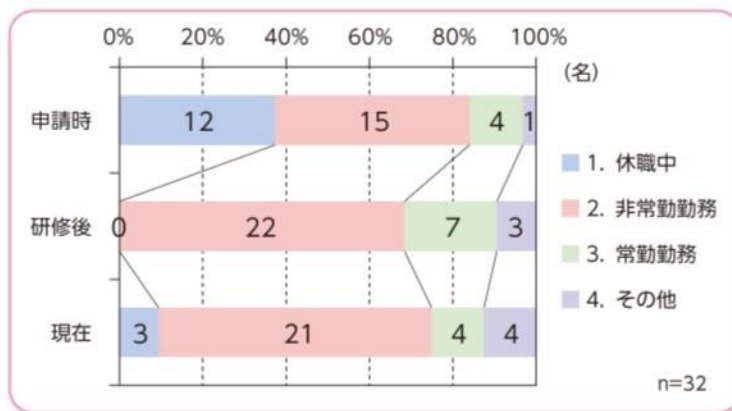
■対象：女性医師再教育センター申請者60名(※)

■回収：32名(回収率53%)

※本調査は、平成25年5月時点の申請者180名のうち、研修中、もしくは研修を修了した60名を対象とした。

Q：センター申請時、研修後(センター相談後)、現在の勤務状況についてお聞かせください。

	申請時	研修後	現在
1. 休職中	12名	0名	3名
2. 非常勤勤務	15名	22名	21名
3. 常勤勤務	4名	7名	4名
4. その他	1名	3名	4名



<申請(相談)時>
「休職中」は12名



<研修後>
「休職中」は0名に!

4. 相談窓口、復職支援

アンケート調査のまとめ

- 相談者の居住地は87%が関東地方、50%が東京であった
- 相談者の年齢は35歳～39歳にピークがあり、30歳～45歳が全体の約6割。
- 子どもがいるものは全体の約8割であった。
- 離職中的人是45%で、非常勤勤務は37%、常勤勤務は10%
- 相談、研修がきっかけで離職者の75%が復職した。
- 離職、常勤→非常勤のきっかけは約5割が出産育児であったが、その他に夫の転勤や自身の健康問題もあった
- 相談の目的は臨床技術や知識に不安があったため研修で自信をつけたいが約7割で、スキルアップが2割であった。
- 相談時の不安要因は診療技術など実力への不安が6割で仕事と子育てとの両立は2割、復職の仕方が分からないが2割
- 相談や研修で約6割の相談者の不安は解消した

5. 一般内科プロジェクト

—女性医師が地域医療で活躍するために

平成18年「女性医師再教育センター」設立

離職した女性医師が復職するためには
リハビリステージ(再研修)が必要

「一般内科プロジェクト」発足のきっかけ

相談者の中に一般内科研修を希望する人が多く見受けられ
研修先(大学病院、地域基幹病院)には一般内科はなく、専門外来が多かった。

相談者側 ⇒ 「一般内科」には「何を学べばいいの？」

研修受入側 ⇒ 「一般内科」では「何を教えればいいの？」

「一般内科」って
…そもそも何？

シンポジウム開催(平成22年1月)
「復職のための一般内科外来
～研修すべきミニマム要件～」

一般内科外来は、以下と定義

- ▶ 年齢、性別、臓器、症状を問わない成人内因性疾患の診断と治療を行う
- ▶ 症候(愁訴と症状)からの鑑別診断能力が必要とされる

5. 一般内科プロジェクト

〈取組〉その1

複数の病院で、内科初診外来で頻度の高い症候(愁訴、症状)のデータベース作り



多施設共同研究(第1段階)

共通問診票を用いた内科初診外来愁訴(主訴)の横断研究



多施設共同研究(第2段階)

縦断研究として転帰、診断名の追跡調査を実施中



〈シンポジウム〉

一般内科初診外来 ～どう学び、どう教えるか～
「地域住民や施設のニーズに合った外来診療技術を身に付けよう!」

相談者側 ⇒ 「一般内科」には「何を学べばいいの?」
研修受入側 ⇒ 「一般内科」では「何を教えればいいの?」



「アンサー」と「課題」を提示

〈取組〉その2

中小病院での研修指導体制を整備し、継続した研修ができるような仕組みの整備



5. 一般内科プロジェクト

＜女性医師が地域医療で活躍する相乗効果＞

一般内科プロジェクト

相談受付、研修だけでなく、女性医師のライフプランと一緒に検討

★ 一般内科 ★

- ▶ 医学部教育と初期臨床研修で習得した知識と技能で行える
- ▶ 外来初診時間帯での短時間勤務や曜日別のワークシェアが可能である
- ▶ 女性医師の特性を活かせる

女性医師

★ 研修の利点 ★

- ▶ 内科常勤医がいる
- ▶ 診断処置に困ったときに相談できる
- ▶ 重症患者を診ることができる(見学)
- ▶ 入院患者を診ることができる

患者

- ▶ 待ち時間が少なくて済む(医師確保により)
- ▶ 時間をかけて訴えを聞いてもらえる
- ▶ 話しにくいことも話せる場合がある
- ▶ 優しく指導してもらえる
- ▶ 細かいところまで気付いてもらえる

地域、病院

- ▶ 一般内科(内因性疾患)の初診外来を担当する医師の確保ができる
- ▶ 常勤医(専門外来医、外科系)の助けになる
- ▶ 軽症患者の待ち時間の短縮
- ▶ 経費削減、収入増加
- ▶ 訴えの多い患者に対して十分に時間を取って対応できる

5. 一般内科プロジェクト

★重要なのは…

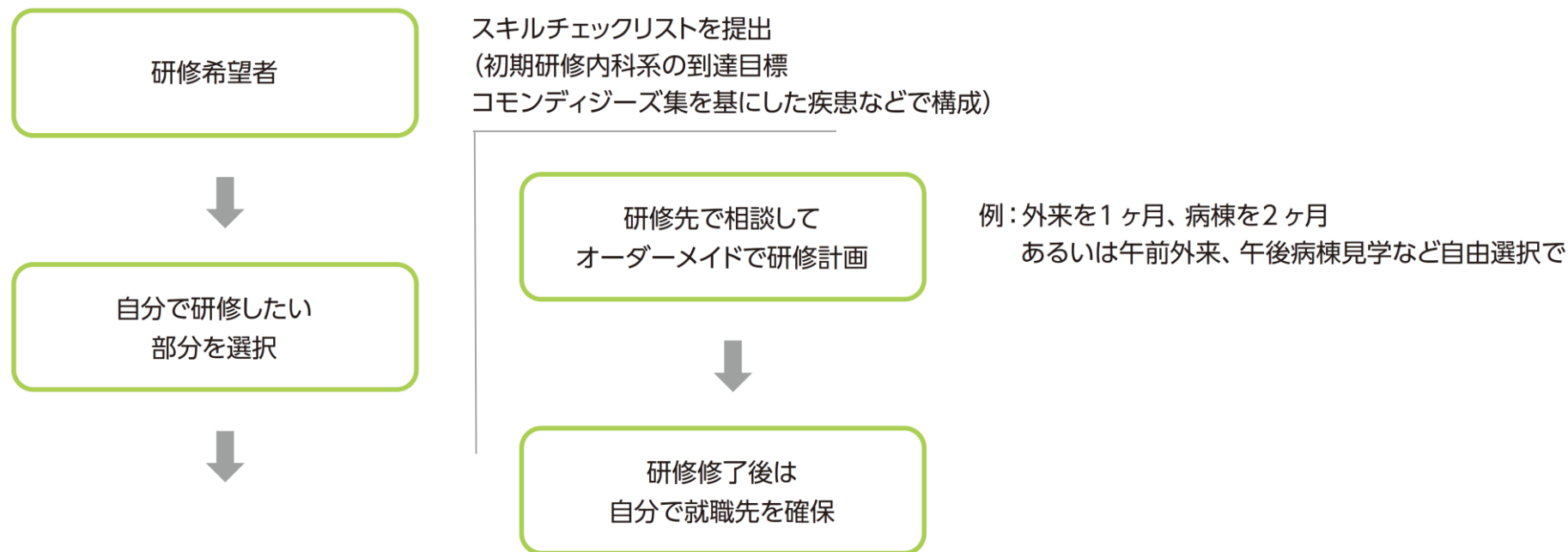
- ・コモンディジーズを学び慣れること
- ・症候の鑑別診断と初期対応(咳、発熱、咽頭症状、頭痛から)
- ・サポート体制の充実
- ・重症例を経験する

★復職する女性医師が一般内科を担当するには…

- ・メンター(キャリアカウンセリングも含む)
- ・教育コーディネーター(研修先の選択)
- ・研修病院の確保と指導医
- ・就職先の確保(中小病院・診療所)

5. 一般内科プロジェクト

東京女子医科大学東医療センター(400床規模)の内科で一般内科研修を実施
(モデルケースとして)



大都市では、出身大学のある地域から離れて勤務している女性医師も多く、出身大学から復職支援のサポートを得ることは難しい場合も多いです。そのため、出身大学を問わない公的な「(仮)女性医師キャリア支援センター」を作り、相談受付やキャリアカウンセリング、研修先の確保とコーディネート、就職先の紹介などの役割を連携して行うか、包括して行うことが望ましいと考えられます。

6. 東京女子医科大学における環境整備

＜職場の理解＞

① 所属長意識改革

本学では、女性医師が働き続けやすい環境整備のために様々な取り組みを行っております。

働きやすい環境整備や公平感の醸成には、所属長の意識改革が重要です。そこで、女性リーダーを育成することが所属長の職務であることを認識し、女性研究者のキャリア形成支援を所属長が積極的に行えるように、大学及び大学病院の所属長向け研修プログラムの開発を進めています。

② 教員評価制度見直し

職場内での公平感の醸成には、導入の趣旨・目的が明確な評価制度が求められます。特に教員評価制度は「評価」という名称から抵抗感を抱かせることも多く、有効に機能させるのが難しいのが現状です。そこで、教授職をはじめとする管理職全体の能力や組織風土の醸成を目指し、女性の上位職登用への積極性を含むダイバーシティの考え方を組み入れた、本学の教員として望まれる人材像の検討や、これに近づくための能力要素を整理したスキルチェックリストの作成を進めています。

※①、②はいずれも、平成28年度文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の取り組みとして実施しています。

6. 東京女子医科大学における環境整備

<勤務体制サポート>

短時間勤務制度

多様な短時間勤務制度で、子育てやキャリア形成をサポートしています。

■ 女性医師支援

	臨床系教員の短時間勤務		医療練士研修生の短時間勤務	女性臨床医師支援の短時間勤務
	定員内	定員外		
年度	2008～	2011～	2011～	2011～
対象	助教以上		医療練士研修生	准講師以上または卒後10年以上
勤務条件	週5日 36時間 週4日 32時間 週4日 28時間 宿日直 月1回 外勤 週4時間以内		週5日 36時間	週5日 36時間 週4日 32時間 週4日 28時間 週3日 28時間 宿日直 月2回まで 外勤 週1日以内
給与	基準内賃金の 8割 7割 6割 社保あり		基準内賃金の 8割 社保あり	基準内賃金の 8割 7割 6割 社保あり
原資	教室・診療科・施設		教室・診療科・施設	宮原敏基金

■ 女性研究者支援

	女性医師・研究者の育成支援	佐竹高子女性医学研究者研究奨励金
年度	2009～	2011～
対象	助教以上	助教以上
勤務条件	週30時間	週30時間
給与	月額制 195,000円 社保あり	月額制 195,000円 社保あり
原資	女性医師・研究者支援基金	佐竹高子医学研究基金

6. 東京女子医科大学における環境整備

＜診療体制サポート＞

女性医師の勤務環境改善

事務作業などにより医師の業務が煩雑になると、診療や研究業務に支障が出る場合があります。事務作業は、医局事務員がサポートしますが、その医局事務員が業務多忙のためにサポートが困難になっている場合があります。

そこで、事務作業のスリム化による医師や研究者及び事務員の業務負担の軽減と、快適な医局作りによる診療・研究等の作業効率向上によるワークライフバランスの向上のため、医局における「事務作業の見直しと効率化」及び「医局スペースの有効活用の方法の提案」を進め、具体的な改善検討を行っています。

※平成28年度文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の取り組みとして実施しています。

6. 東京女子医科大学における環境整備

< 保育環境 >

① 院内保育所

昼間・延長・夜間・休日・病児保育を行っています。昼間・延長・夜間・休日保育は生後8週から小学校就学まで、病児保育は生後3ヶ月から小学校3年生までのお子様が利用できます。また、搾乳室も保育所内に設置しています。

■ 女子医大附属保育所



	昼間保育	延長保育
対象	2か月～就学前の待機児	2か月～就学前
時間	7:30～18:30	18:30～20:00
料金	200円/時 2年目以降300円	300円/時 2年目以降350円

	病児保育	休日保育	病児保育
対象	2か月～就学前	2か月～就学前	3か月～3年生
時間	20:00～7:30	7:30～18:30	8:00～18:00
料金	400円/時	300円/時 2年目以降350円	500円/時

ベビーシッター割引券の発行もしています

6. 東京女子医科大学における環境整備

< 保育環境 >

② 女子医大・東京医大ファミリーサポート

医療従事者の勤務環境整備のために、学内にファミリーサポートシステムを構築し、地域の方を中心とするファミリーサポーター(提供会員)を募集し、本学医療従事者(依頼会員)の子どもの急病時や放課後の保育など細やかな支援をしていただくことにより、勤務を中断せずすむ体制を整えるために設立されました。

平成26年からは、同じ新宿区にある東京医科大学と連携してファミリーサポートを運営しています。

■ 女子医大・東京医大ファミリーサポート



	一時預かり保育	病児保育	お泊まり保育
場所	依頼会員の自宅 提供会員の自宅	依頼会員の自宅	提供会員の自宅
対象	生後おおむね2か月～ 15歳	1歳～6年生	1年生～6年生
時間	7:00～22:00	8:30～18:00 土・日・祝日はなし	19:00～7:00
料金	800円/時 19:00以降900円/時 (兄弟の2人目以降は半額)	基本1,000円/時	1泊18,000円 (兄弟の2人目以降は半額)

7. 普及推進・報告書配布

- 都道府県庁(地域医療支援センター)
- 都道府県医師会
- 医学部・医学会女性医師支援担当者
- 全国医学部(国公立)
- 研修協力病院
- その他女性医師支援関係者 など

8. 総括と今後の課題

都市部の理想的な女性医師キャリア支援モデル

